

気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会

開催主旨

I P C C 第 5 次報告書において、気候システムの温暖化には疑う余地がなく、世界平均地上気温は 1850～1900 年と 1986～2005 年を比較して 0.61°C 上昇し、世界平均海面水位は 1901～2010 年に 0.19m 上昇していること、21 世紀末までに、世界平均地上気温は 0.3°C ～ 4.8°C 上昇し、世界平均海面水位は 0.26 ～ 0.82m 上昇する可能性が高いことや、21 世紀末までにほとんどの地域で極端な降水がより強く、より頻繁となる可能性が非常に高いことなどが予測されることが報告されている。

このような中、平成 27 年関東・東北豪雨や平成 28 年北海道・東北地方を襲った一連の台風、平成 29 年九州北部豪雨など、近年、水災害が頻発している。

水災害分野における気候変動適応策としては、特に施設能力を上回る外力に対してできる限り被害を軽減するためのソフト対策を充実させてきたところであるが、ハード対策とソフト対策は、本来、一体的に取り組むべきものであり、ハード対策も含めた気候変動適応策の検討が進められる環境を整える必要がある。

このため、「気候変動を踏まえた治水計画の前提となる外力の設定手法」、「気候変動を踏まえた治水計画に見直す手法」等について検討を行う「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」を設置するものである。